

## ドイツ語の母音、半母音、音節

1) 母音を表す文字 : a, e, i, o, u, ä, ö, ü

例外 :

- „qu“という組み合わせで発音は„kw“と同じで、u は母音を表しません。
- „r“の文字が母音の後に来る場合には「母音化」されることがあります。ただしその場合は音節をなす単独な母音にはなりません。(Kern, unter など)
- „y“は外来語にしか使われない文字ですが、母音を差す場合が多い。ギリシャ語から来た外来語(学問用語には多い)には y が ü と同じ発音になります。(Physik: 発音は Füsik)
- ラテン語から来た外来語(学問用語には多い)では„i“が子音になることがあります。(Nation: 発音は Nazjon)
- 現代語(英語、フランス語など)から来た外来語では原則として原語の発音に従うのでドイツ語のルールは当てはまらない場合が多い。
- 人名や地名のスペリングと発音には様々な例外があります。

2) 上の8つの母音には全て長短が区別されます。a と ä 以外の母音では長短の発音が長さだけではなく、発音も違います。その場合の短音では長音より口が開くので、長音は geschlossen (閉まった)、短音は offen (開いた)とも言われます。また、e の短音は強調される発音と強調されない発音が区別されます。強調される短音の e は ä と同じ発音です。

強調されない e の発音は子音からも影響を受けますが、非常に軽く発音され、完全に消える場合があります。消えても書く場合と、消えるときに書かない場合があります。それは音節との関係がある。前者の例 : Faden は Fadn と発音されることが多いが、Fadn と書くのは誤りです。

後者の例 : andere では真ん中の e が消えることがあり、その場合は andre と表記します。発音されない e が Faden で書き、andre で書かない理由は、母音が音節の存在を示すからである。

二音節語 Faden は Fadn と発音されても二音節語です。三音節語 andere は andre と発音される場合二音節語になります。その理由は半母音と音節の構造が分かれば明らかになります。

従って実際の発音から見たドイツ語の母音は少なくとも 14 種類があります。(長母音をコロンで表します。)

- |       |      |       |                 |          |       |        |       |
|-------|------|-------|-----------------|----------|-------|--------|-------|
| 1) a: | a    | 2) e: | 3) e(強調), ä:, ä | 4) e(軽く) | 5) i: | 6) i   |       |
| 7) o: | 8) o | 9) u: | 10) u           | 11) ö:   | 12) ö | 13) ü: | 14) ü |

長母音の特別の表し方 :

ah, aa (= a:); eh, ee (= e:); ie, ih, ieh (= i:); oh, oo (= o:); uh (= u:); äh (= ä:); öh (= ö:); üh (= ü:)

ただし母音の文字が単独で使われても長母音を差す場合が多い。ß の前の母音は必ず長母音です。

短母音の特別の表し方 :

二重子音、または複数の子音が母音の後に置かれると、その母音が原則として短母音になります。ただし複合語、動詞変化などによって生じた子音の固まりはその限りではありません。

3) 二重母音は次の種類があります。

ei, ai (発音は ai。人名などでは ey, ay という表記も)

au (発音は ao)

eu, äu (発音は oi)

二重母音は音節とスペリングのルールに関して長母音と同じ扱いになります。

#### 4) 半母音のこと

子音の中で、声を出しながら続けて発音できるものは「半母音」とも呼ばれます。具体的に言えば j, l, m, n, ng, r, s (ざ行), w です。上に挙げた Faden の例で e が発音から消えても音節が成立するのは、d の後に半母音があるからです。

### ドイツ語の子音

発音は前から後ろへ

唇で発音する子音 : m, b, p

練習 : Mama, Biber, Pappe, Pumpe, Baum, ab (発音 : ap)

上の歯と下の唇で発音する子音 : w, f

注 : v も f の様に発音される単語が多い。一部の単語と外来語で v が w と発音される。

練習 1 : wie, wo, Uwe, Vieh, auf, Waffe

練習 2 : Wabe, Pfaffe, Pimpf

舌先を上歯に付けて発音する子音 : s (有声) , n, l, s (無声) , d, t

注 : s では空気が舌先の横から出ます。単独で母音の前にある時は有声 (濁音) で発音。

l では空気が舌の横の方から出ます。

n では空気が口から出ず、鼻から出ます。終了音をなす場合は ng と混合しないよう !

ß は無声の s と同じ発音

z は ts (無声) と発音

練習 1 : so, Suse, Soße, nun, Nuss, Sonne, lila, leise, Seil, sein, nass, Lohn, Annalen, Insel, Inseln, Oslo, Dada, dann, Laden, dudeln, Dose, sodann, das (=dass), Dunst, Tat, Naht, Tonne, Tante, Taste, Last, Sattel, zu, Zahl, Satz, Nase

練習 2 : walten, falten, Balten, basteln, Pflaster, Sumpf, Wüste, zusammen, Fleiß, Pause

上下の歯を付けて、舌で空気を送って発音する子音 : sch

注 : sp=„schp“と発音 (音節の始めにある場合のみ)

st=„scht“と発音 (音節の始めにある場合のみ)

練習 1 : Schau, Asche

練習 2 : Schal, lauschen, Tasche, Schaf, schmal, falsch, plantschen, Tausch, stolz, Speise, schaffen schlafen, waschen, schneiden, Schweiß

舌の中央部と口蓋の間から出す子音 : ng, j, ch, g, k

注 : ng と j の関係は n と有声 s と同じ関係にあります。

j と ch の関係は有声と無声の違い

ck は k と発音 (その前の母音が短母音化)

nk は ng+k と発音

qu は kw と発音

x (と多くの場合 chs) は ks と発音

ここの ch は e, i, ei, eu, ä, ö, ü と子音の後、または言葉の始めに使われる場合のみ

練習 1 : eng, ja, ich, euch, Geige, Ecke, Gang, Gänge, jung, Jacke, Küche

練習 2 : weich, Weiche, Mädchen (発音 : Mäht-chen), Jäckchen, Jagd (発音 : Jahkt), jeder, Wagen, manche, Wolke, Wachs (発音 : Waks), Fax, Fuchs (発音 : Fuks), Quelle

舌の後ろとのどびこから出す子音 : r, ch

注 : r と ch の関係は有声と無声の違い

ここの ch は a, o, u, au の後に使われる場合のみ

練習 1 : roh, ach, Rauch, rühre, Rache

練習 2 : rot, Brot, Pracht, brauchen, brechen, Joch, wringen, frei, Straße, sprechen, schreiben, Bauchredner, Ausrede, Sache, Requiem (発音 : Rehqui-em), Tragbahre, Wachtraum

喉から出す子音 : h

注 : この子音はいつも喉から出さなければならない (hi と hu の場合も)

練習 1 : hier, haue

練習 2 : Hund (Fund と区別), Hülle (Fülle と区別), Hure (Fuhre と区別), Hühner, Haube, heben, hierhin (China, Herrchen などと区別), hohl, Hilfe, Hüfte, verhindern, unverhofft

特別の発音 :

音節の終了音をなす b, d, g は p, t, k と発音される。

### 音節のこと

音節は発音上のもっとも重要な単位で、韻文ではリズムの単位でもあります。

音節は以下の構造になります。

×	×		×	×
又は	又は	母音	又は	又は
子音	半母音	又は	半母音	子音
又は	又は	二重母音	又は	又は
複数の子音	複数の半母音		複数の半母音	複数の子音

従って音節の数を、音節の中心となる候補者の母音あるいは二重母音を数えることによって定めることが出来ます。

例 :

一音節語 : Ei, ich, nah, querst, zwei, sieht, schwarz, Strauch, grunzt, Bruch, Dorf, Moor

二音節語 : Eier (Eier), Vater, Erbrecht, Oma, sehe (発音 sehe), säe, schlüpfest, Seeaal

三音節語 : vereinigt, Ebene, Faustregel, Herbststräucher, ehrenhaft, Leiermann

四音節語 : Sattelschlepper, Befangenheit, Versicherung, Räuberleiter, Frauenquote

五音節語 : Universität, Mietvertragspartei, übergebende